

平成24年度春の叙勲・褒章受章者

4月29日に叙勲及び褒章受章者が発表され、当会から以下の方々ที่叙勲・褒章の榮に浴されました。心よりお慶び申し上げます。

叙勲者の横顔



旭日小綬章 (弁理士業務功勞)

たに よし かず
谷 義 一

学歴・職歴

昭和40年 東京大学工学部電気工学科 卒業
(現在) (業)谷・阿部特許事務所

弁理士会歴

昭和48年 弁理士登録 (7748号)
昭和60年～62年 弁理士会常議員
昭和61年～62年 国際活動委員会 副委員長
昭和62年～63年 特許事務報酬制度委員会 副委員長
昭和63年～平成1年 特許事務報酬制度委員会 委員長
平成3年～4年 知的財産検討委員会 委員長
平成5年～6年 弁理士会理事 (副会長)
平成7年～8年 弁理士報酬制度委員会 副委員長
平成7年～8年 工業所有権に関する裁判外の紛争処理等検討委員会 委員長
平成9年～10年 工業所有権仲裁センター設立準備委員会 副委員長
平成10年～11年 弁理士制度100周年記念事業実行委員会 副委員長
平成11年～12年 工業所有権仲裁センター 副センター長
平成11年～12年 弁理士制度100周年記念事業実行委員会 副委員長
平成12年～13年 国際活動委員会 委員長
平成16年～17年 対外協力事業推進委員会 副委員長
平成17年～18年 日本弁理士会副会長 (総括副会長)
平成18年～19年 日本弁理士会会長
平成18年～19年 登録審査会 会長
平成24年～ 日本知的財産仲裁センター センター長

公職

平成10年1月～11年12月 弁理士審査会委員
平成13年4月～14年4月 産業構造審議会臨時委員
平成18年4月～19年4月 産業構造審議会臨時委員
(知的財産政策部会弁理士制度小委員会)

懇談会

平成10年2月～3月 司法制度特別懇談会 委員
平成20年5月 定期総会 議長

賞

平成3年 弁理士会特別功勞表彰
平成6年 弁理士会特別功勞表彰
平成11年 弁理士会特別功勞表彰
平成11年 弁理士制度100周年記念式典

平成 12 年 弁理士会感謝状
平成 14 年 日本弁理士会永年功労表彰
平成 15 年 日本弁理士会感謝状
平成 19 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 20 年 日本弁理士会感謝状
平成 20 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 21 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 21 年 弁理士制度 110 周年記念式典特別功労者表彰

受章に浴して

このたび、平成 24 年春の叙勲の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。これも偏に、特許庁、日本弁理士会、諸先輩方々、友人およびその他の多くの関係者の皆様から頂戴しました多年にわたるご指導、ご支援、そしてご尽力の賜物であると、心から感謝申し上げます。

また、日本弁理士会をはじめとしまして関係諸団体や多くの皆様からご丁寧な祝意をいただきまして、誠にありがとうございました。

昭和 48 年（1973 年）の弁理士登録以来、ひたすらに弁理士業務に励んで参りました。振り返ってみますと、あっという間の 38 年余ですが、ここまで努めてこれられましたのは、健康であったからこそであり、頑丈な身体に生み、育ててくれた両親、そして家庭にあって小生を支えてくれた家内に感謝します。

日本の産業が世界を目指した 70 年代から弁理士業務を始め、知財立国をめざす環境で思う存分、仕事ことができましたことは、とても幸運であったと思います。平成 17～18 年（2005～2006 年）度においては、当時の執行部の皆様と一緒に、地域知財活性化に励み、諸外国、特にアジア諸国との交流を促進し、弁理士法の改正において、弁理士の地位向上を目指し、研修の義務化を実現できましたことを、誇りに思っております。

現在は、10 年前とは様変わりの厳しい状況、特に昨年の東日本大震災、福島原発事故という未曾有の状況下において、これらの困難に打ち克ち、知財の活力を国の力として世界に示していくべく、これからの弁理士諸氏が活躍されますことを期待しますとともに、小生も微力ながら、皆様と一緒に活動し、尽力していきたいと思っております。

今後とも、どうぞ、相変わらずのご指導、ご厚誼をよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。



旭日双光章 (弁理士業務功労)

いっ しき けん すけ
一 色 健 輔

学歴・職歴

昭和 42 年 慶應義塾大学大学院法学研究科修士 修了
昭和 51 年 東京電機大学短期大学 卒業
(現在) 一色国際(業)

弁理士会暦

昭和 43 年 弁理士登録 (7128 号)
昭和 56 年～ 57 年 会誌委員会 副委員長
昭和 57 年～ 58 年 弁理士職域委員会 副委員長
昭和 58 年～ 60 年 弁理士会常議員
昭和 61 年～ 62 年 弁理士業務対策委員会 副委員長
昭和 62 年～ 63 年 長期ビジョン委員会 副委員長
平成 14 年～ 16 年 研修所 副所長
平成 16 年～ 17 年 研修所 副所長
平成 17 年～ 18 年 日本弁理士会副会長
平成 18 年～ 19 年 日本弁理士会常議員
平成 18 年～ 19 年 常議員会第一委員会 委員
平成 19 年～ 21 年 日本弁理士会常議員
平成 19 年～ 20 年 常議員会第二委員会 委員
平成 20 年～ 21 年 常議員会第二委員会 委員長
平成 20 年～ 21 年 常議員会調整委員会 委員
平成 22 年～ 23 年 日本弁理士会副監事長
平成 23 年 日本弁理士会監事長

賞

平成 1 年 弁理士制度 90 周年記念式典特別功労
平成 10 年 弁理士会永年功労表彰
平成 18 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 21 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 21 年 弁理士制度 110 周年記念式典特別功労者表彰
平成 23 年 日本弁理士会特別功労表彰

受章に浴して

この度は、はからずも叙勲の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。

また、受章に際し日本弁理士会会長を始め多くの弁理士、弁理士関係団体からご丁寧なるご祝辞を頂き、誠にありがとうございました。

顧みますと弁理士登録をしてからの約 45 年間に素晴らしい多くの発明に出会い、これらの発明の権利化等に少しでも寄与できたことを大変誇りに思っております。そして、この間に良き事務所スタッフとの出会いがあり、気持ちよく本来の弁理士業務に専念することができました。また、弁理士会の会務に心おきなく携わることができましたのも、事務所スタッフの支えがあったことです。そして、平成 17 年度には佐藤辰彦会長の下に、今回同時に受章されました谷義一先生を始めとして多くの仲間とともに、正副会長会を通して弁理士会のために働くことができましたことは大きな喜びであります。

この度の受章をきっかけとして、今までの経験を少しでも弁理士会のお役に立てるよう微力ではありますが努力する所存ですので、どうぞよろしく願い申し上げます。



旭日双光章 (弁理士業務功労)

よし だ つぐ お
吉 田 維 夫

学歴・職歴

東京工業大学化学工学科 卒業
(現在) 青和特許法律事務所

弁理士会歴

昭和 55 年 弁理士登録 (8627 号)
昭和 60 年～61 年 令規委員会 副委員長
平成 1 年～ 2 年 国際緊急問題対策委員会 副委員長
平成 2 年～ 4 年 弁理士会常議員
平成 3 年～ 4 年 AIPPI 東京総会協力委員会 委員
平成 3 年～ 4 年 常議員会第一委員会 副委員長
平成 4 年～ 5 年 令規委員会 副委員長
平成 5 年～ 6 年 令規問題検討委員会 委員長
平成 7 年～ 8 年 財務委員会 副委員長
平成 11 年～ 12 年 総合政策検討委員会 副委員長
平成 13 年～ 14 年 弁理士倫理委員会 副委員長
平成 14 年～ 15 年 総合政策検討委員会 副委員長
平成 15 年～ 16 年 日本弁理士会副会長
平成 16 年～ 17 年 選挙管理委員会 委員長
平成 22 年 日本弁理士会常議員
平成 22 年～ 23 年 常議員会調整委員会 委員
平成 22 年～ 23 年 常議員会第四委員会 副委員長
平成 23 年～現在 常議員会第二委員会 委員

公 職

平成 17 年 7 月～ 18 年 11 月 工業所有権審議会臨時委員

賞

平成 5 年 弁理士会特別功労表彰
平成 13 年 日本弁理士会永年功労表彰
平成 14 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 16 年 日本弁理士会特別功労表彰
平成 19 年 日本弁理士会感謝状
平成 21 年 弁理士制度 110 周年記念式典特別功労者表彰

受章に浴して

この度、思いがけずも叙勲の榮に浴し大変光榮に思っています。これもひとえに多くの皆様方の多年にわたるご支援のおかげであると存じこの書面を通じて謝意を表させていただきます。

特に、青和特許法律事務所入所以来公私共に真に親身になってご指導いただきました故青木朗先生には深く感謝いたしております。

私は、昭和 55 年に弁理士登録の後今日まで弁理士業務一筋に過ごしてまいりましたが、業務の内容としては国内外における化学関連の特許出願手続が中心でありました。そして、それらの業務を通じて、知財関係の多様な業務に携わる内外国の多くの方々とのお知己を得ることができましたことは大きな喜びであり、わが人生の貴重な財産であるように感じています。

末筆になりましたが、これまでに多くの方々から賜りましたご厚誼に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。これからも相変わらずのご指導をお願いいたします。



瑞宝中綬章 (通産行政事務功労)

なか たに よう いち
中 谷 洋 一

学歴・職歴

昭和 41 年 大阪工業大学工学部機械工学科 卒業
昭和 41 年 特許庁入庁
昭和 57 年～ 59 年 新エネルギー総合開発機構
昭和 59 年～ 63 年 審査官
昭和 63 年～平成 3 年 総務部特許情報管理課長
平成 3 年～ 4 年 審査第二部調整課長
平成 4 年～ 5 年 審査部審判長
平成 5 年～ 6 年 審査第三部長
平成 6 年～ 7 年 審査第二部長
平成 7 年 特許庁退官
平成 7 年～ 12 年 財団法人日本特許情報機構
(現在) 登録調査機関 株式会社みらい知的財産技術研究所

弁理士会暦

平成 17 年 弁理士登録 (13966 号)

受章に浴して

この度、瑞宝中綬章を頂戴いたしました。誠に身に余る光栄と思っております。これも、ひとえに皆様の心温まる、ご支援、ご指導によるものと、改めて感謝しているところでございます。

また、綬章に際しましては、弁理士会をはじめ多くの方々から祝意を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。

入庁当時は、特許制度の運用手段も不十分で、且つ古い慣行が色濃く残っており、実用新案の明細書の書き出しが「本文に詳記し図面に示す如く」と言った文語調で、考案の課題、目的もなく、いきなり実施例からの記載であったことを鮮明に記憶しております。着手時期も 4 年程度遅れていたと思います。

それから約半世紀、出願、調査システム、審査基準等も見事に整備され、着手期間も短縮化されました。ここに至るまでの間、各方面で、営々と尽力された方々に深甚なる敬意を表したいと思えます。

退官後は、特許情報の普及、特許情報システムの開発などに携わらせて頂きました。現在は、「情報処理」「インターフェース」の分野において、特許庁の審査のお手伝いをさせていただいております。

今後も引き続きご支援、ご指導賜りますようお願いいたします。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

せき や みつ お
関 谷 三 男

学歴・職歴

昭和 43 年 日本大学理工学部機械工学科 卒業
昭和 37 年～39 年 新潟大学工学部に採用
昭和 39 年 特許庁に転任
昭和 43 年～53 年 審査官
昭和 53 年～54 年 審判官
昭和 54 年～61 年 審査官
昭和 61 年～62 年 審査第三部審査長
昭和 62 年～63 年 審査第三部審査監理官
昭和 63 年～平成 1 年 審査第三部審査長 (上席)
平成 1 年～4 年 東京高等裁判所知的財産部調査官
平成 4 年～6 年 審判部審判長
平成 6 年 特許庁退官
(現在) 平木国際特許事務所

弁理士会暦

平成 6 年 弁理士登録 (10546 号)

受章に浴して

この度、図らずも平成 24 年春の叙勲の榮に浴し、身に余ることと感じておりますと共に、これはひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。

また、受賞にあたり、弁理士会の方々をはじめ多くの方々からご丁寧なご祝意をいただきましたこと、大変有り難く、御礼申し上げます。

顧みますと、東京オリンピック開催及び東海道新幹線開業の年である昭和 39 年 4 月に特許庁に入庁して事後 30 年余は審査官・審判官として、特許庁退官後の 17 年余は弁理士として、一貫して特許等を中心とした知的財産関係の仕事を無事・健康に務めさせていただいております。これも先輩、同僚、後輩の方々のご指導ご支援、及び発明者・出願人の方々のご理解ご協力の結果であると感じております。

長く知的財産関係の仕事をさせていただいておりますが、取り立てて皆様に申し上げるようなこともなく、目前の仕事を、一つ一つ怠りなく一生懸命に処理させていただくと云うのが偽りのない気持ちでございます。

現在の制度改正等特許制度を取り巻く環境は、日々変化しておりますが、それに遅れないように、これまでの経験を生かして、頑張っていく所存でございますので、これからもご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



瑞宝小綬章 (通産行政事務功労)

あり さか まさ あき
有 阪 正 昭

学歴・職歴

昭和 43 年 3 月 中央大学法学部法律学科 卒業
 昭和 36 年 4 月 特許庁入庁 (審査第一部登録課)
 昭和 37 年 7 月～45 年 6 月 総務部総務課 (同 41 年 9 月～同 46 年 9 月「企画室」併任)
 昭和 45 年 7 月～47 年 4 月 審判部書記課
 昭和 47 年 5 月～49 年 3 月 審判部審判官室
 昭和 49 年 4 月～51 年 3 月 審査官補
 昭和 51 年 4 月～平成 2 年 9 月 審査官 (昭和 56 年 4 月～同 60 年 3 月「工業所有権制度百年史」編纂室・編集委員会専門委員, 同 62 年 10 月～平成元年 9 月「商標機械検索プロジェクトチーム員」併任)
 平成 2 年 10 月～3 年 審判官 (平成 3 年 10 月～4 年 3 月「訟務室員」併任)
 平成 4 年 4 月～4 年 12 月 前任上席審査官
 平成 5 年 1 月～6 年 6 月 審査第一部商標国際分類管理室長
 平成 6 年 7 月～7 年 3 月 審査第一部商標審査長
 平成 7 年 4 月～9 年 12 月 審判部審判長
 平成 10 年 1 月～11 年 1 月 審判部第 37 部門長
 平成 11 年 2 月 1 日 特許庁退職
 (現在) 有阪商標・特許事務所

弁理士会暦

平成 11 年 弁理士登録 (11355 号)

受章に浴して

この度、叙勲の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。
 これも、良き先輩・同僚・後輩方のご指導・ご協力ならびにご支援の賜と心より感謝申し上げます。
 また、この度の受章に際し、日本弁理士会会長をはじめ多くの方々からの祝意をいただきまして誠にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。
 振り返りますと、特許庁に入庁した年は、昭和 34 年法が施行されて 2 年目の 4 月、登録課に配属、行政不服審査法施行年の 7 月に総務課に配置替え、主に各課の案件受理・処理・未済件数の調査、特許庁年報の編纂および特許庁公報への掲載化、出願公開・審査請求・審査前置制度が成立した年の 7 月に審判部書記課に配置替え、審判事件の調書作成事務・審査前置制度施行に伴う事務処理の円滑化、審判部審判官室で審判事件の調査・企画事務・審判事件難件案件の外部調査委託化に携わり、同 51 年に商標機械検索化、同 56 年 4 月から工業所有権制度百年史編纂事業など辞職まで色々な業務を経験させていただきました。
 これらの経験を糧に、平成 11 年、弁理士制度百周年の年に弁理士登録以来、昨年まで弁理士の日記念事業の全国無料相談会および知的財産権法規沿革集 (明治～平成 20 年) の DVD 化に携わり、現在は、茨城委員会で県内弁理士の存在を県民にアピールすること、県内弁理士の横の絆を編むこと及び茨城県の産業発展に寄与せんと微力ながら踏ん張っています。
 今後も皆様方のご指導とご支援をお願い申し上げます。